



# Support SE 愛LOVE友 education

No.20

美瑛町立美瑛中学校 すだちの教室  
2020年6月18日 発行  
文責 特別支援教育コーディネーター三上山



東近江市立五個荘小学校 校長 宮居 伝 学校便り引用(平成25年6月23日)

校長 宮 居 伝

私たちは、多くの人と交わり、日々の生活を送っています。このことは、子どもたちも同じで、まずは家庭、そして学校や地域というように、交わる幅が広がっていきます。

最も身近な親や家庭の考え方、少し大きな集団の地域や学校での交わりなど、そのなかで、自分の価値感を築き、人権感覚を身につけていきます。誰もが、互いに大切にされることを願いつつも、時として、それが満たされないことがあります。

涙を流し辛い思いをしなければならないことがあったり、自分自身を見つめ直したりしながら、心が成長していきます。

ところで、次のような『子どもの3つの願い』ということを聞かれた方もおられるのではないのでしょうか。

その3つとは

**勉強がわかりたい**

**親や先生に認められたい**

**友達と仲良くしたい**

です。そして、この願いが叶っていけばいくほど、子どもたちは充実した学び・生活を送っていくわけです。

学校が学びの場であることは言うまでもありませんが、その学びは、教科の学習だけでなく、友との関わり方やけんかをしてしまった時の仲直りの仕方なども、そのひ

とつです。一人だけでは学べないことを、「(小) 集団」というなかで体験し身につけていきます。そして、成長するにつれ、交わる集団が大きくなり、社会に出て行くわけです。

このようなことを考える時、『環境は人をつくる』というのを忘れてはならないように思います。「環境」と言えば、物的な環境もありますが、関わる人の影響には大きなものがあるように感じます。

私たち大人の考え方や行動は、子どもたちの成長にとって大きな環境（要因）です。私たちの何気ないひとことが、子どもたちに大きな影響をあたえてしまうこともあります。子どもにとってプラスになればいいのですが、意欲をそいでしまったりすることになれば大変です。

だからこそ、私たち大人もまた、日々、人権感覚を磨く努力が必要ではないのでしょうか。

「いい言葉の発信」ができるよう人権感覚を磨く努力を、寄り添う努力を、一人の人として続けていきたいと思っています。

## ひとつの言葉

ひとつの言葉	けんかして
ひとつの言葉で	仲なおり
ひとつの言葉で	涙を流し
ひとつの言葉で	笑い合う
ひとつの言葉	頭が下がり
ひとつの言葉	いがみあう
ひとつの言葉	それぞれに
ひとつの心を	もっている

口に入れる食べ物で、身体ができるように 耳に入れることばで心が育ちます。

知識/実践/シェアすることで 私たちは日々成長できます。ひとつの言葉 大切にしましょう。